

ミチノコ・ニワノコ・オクノコ

( 断章“ノコギリヤネのある風景” その16 )



▲ ノコギリヤネの奥には…

- 1 ノコギリヤネを開くということ
- 2 ミチノコに「まち」を見る
- 3 ニワノコが「まち」をつくる
- 4 オクノコが開くとき

ノコギリアン (神奈川県藤沢市在住/のこぎりニにノコギリアン・コウバを主宰)

## 1. ノコギリヤネを開くということ

気をつけて下さい。ここには、オニがいるそうですから。そう、オニですよ。角があって、口が裂けて…

はっはっは、冗談ですよ。でも、迷路のようなところですから、迷うかも知れません。一見、分かりやすそうですが、見えない通路があると聞いています。

このノコギリヤネが開かれたのは、もうずっと昔のことです。建物の老朽化が激しく、一時期、閉じられていましたが、多くの人たちの支えで、つい最近、再開できました。

当初、かなり話題になりましたよ。多くのコウバが閉じられ、道から人の賑わいがなくなり、「まち」は元気を失っていました。家族や地域などの共同体も崩壊していきました。

そういう状況の中で、ひとつのノコギリヤネが開かれたのです。閉じた私有地の中に開かれた公共空間…。いや、そんな表現は似合わない。原っぱですよ。もっと平たく言えば、遊び場です。それは、お仕着せの遊具のある公園とは真逆のものです。面白いと思うことを自由にできる場です。もちろん、いくつかの制約はありますけれど。創造の原点ですよ、遊びは。あるいは、「生きていく力」でしょうか。ノコギリヤネには、人が生存に必要としてきた家族や地域の共同体的記憶が残っているのかもしれません。

講釈はこのぐらいにして、実際に中に入っていた方がいいですね。

このノコギリヤネには、二つの入り方があります。正面のミチから入るか、あるいは、建物の東西に開いたニワから入るか。



▲ 原っぱになったノコギリヤネ

## 2. ミチノコに「まち」を見る

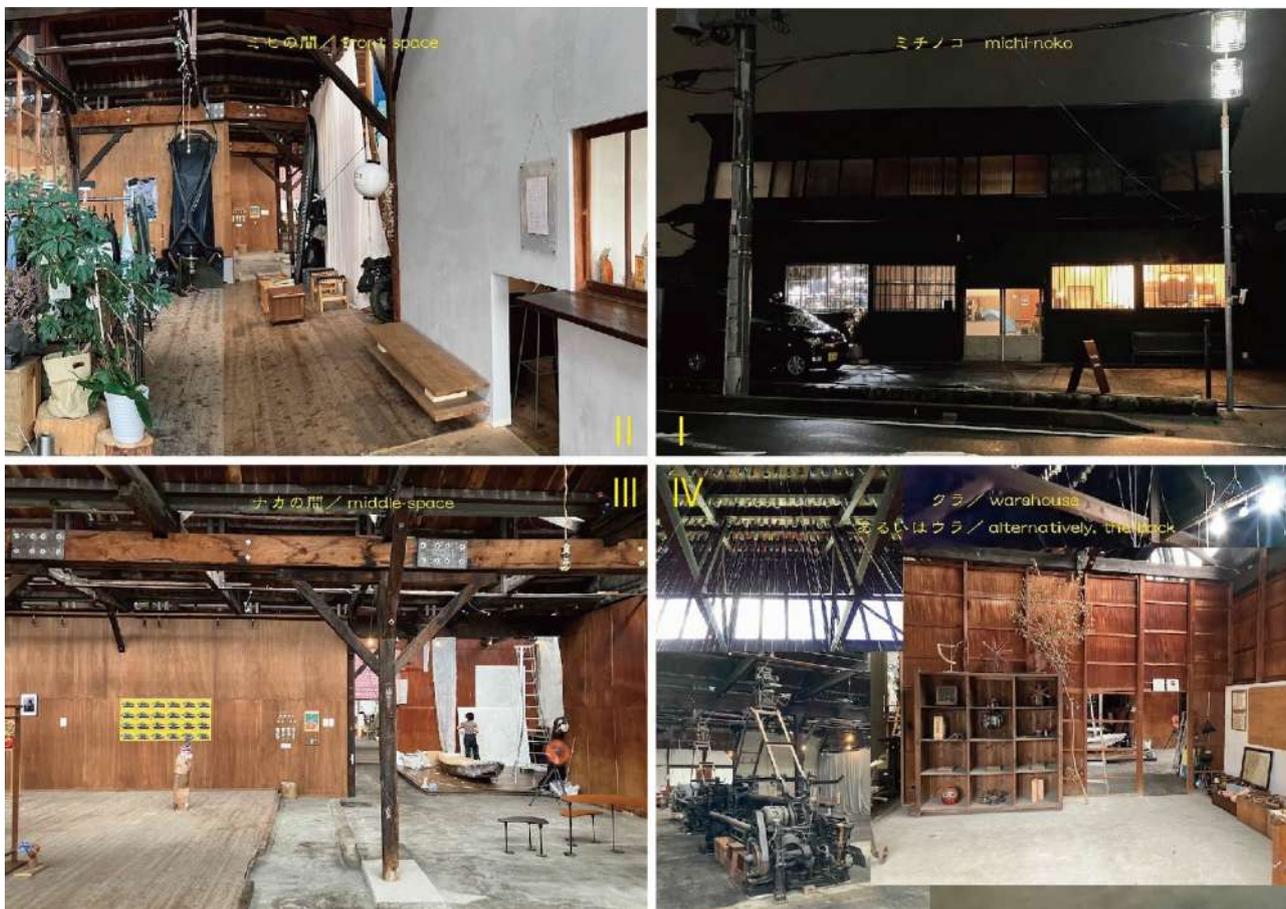
こちらが、正面から入るアプローチです。当初、この入り口はありませんでしたが、後に、二つのお店が入った際に設けられました。道路沿いの塀も取り払われ、オモテとなる顔ができました。顔ができて、コミュニケーションの機会が増大しました。

中央に通路が伸び、その先に大きな広間が見えるでしょう。この建物のメイン展示スペースです。様々な展示が開催されます。その先に少し小さな広間が見えますか。ここもギャラリーです。そして、さらに奥へと土間が延び、工房の集まるエリアに続いています。

キョウトという古い都があります。そこでは、細長い敷地に町家（マチヤ）と呼ばれる店舗付きの住まいが格子状に区画されたまちを形成しています。道に面して、ミセ（店）が配置され、土間を介して、ナカ（中）の間、その奥にクラ（蔵あるいは作業場）へと続きます。ここは、その直線的な間取りに通じるものがあります。

「ミチ」に面して開いているから、ミチノコと呼ばれます。昔のまちは、建物とミチが一体となって、賑わいを創出していましたが、いつしか、ミセや住まいは、プライバシー、セキュリティ面から、閉じてしまった。ミチノコは、昔のまちを思い出させてくれます。オモテができてウラが発生する。分かりやすい構成です。ここから入った方が、迷わないかもしれませんね。

せっかくなので、お店を覗いてみて下さい。面白いですよ。ここで扱う商品には、彼らの人格の一部が付着しているというか…



▲ ミチノコ：ミセ・ナカ・クラ

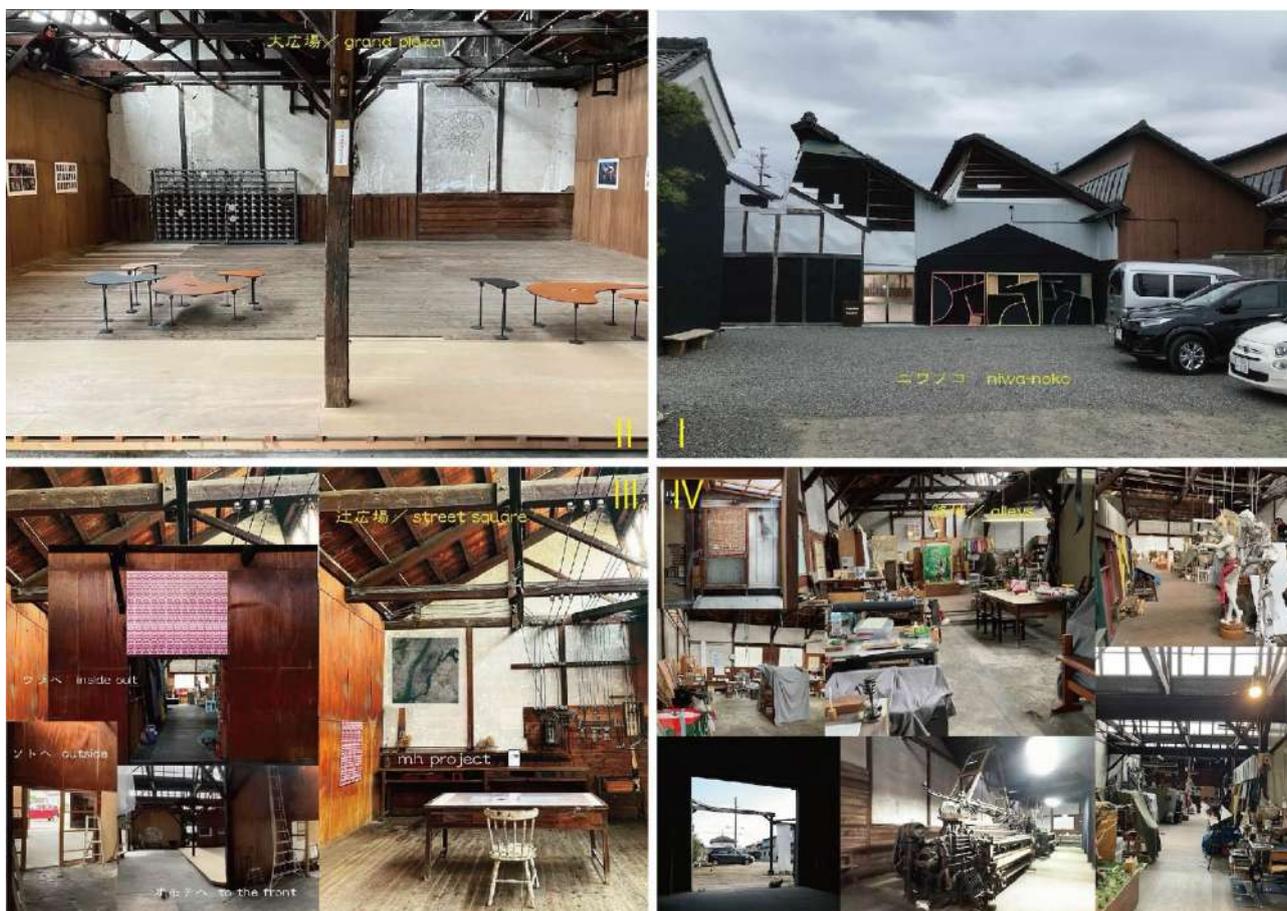
### 3. ニワノコが「まち」をつくる

もうひとつの入り方です。ここには、建物の東西に二つのニワ（オープンスペース）が配置されています。西側から入ってみましょうか。正面に大きな展示スペースが見えますね。屋根付きの大きな広場のように見えませんか。そして斜め向かいにも小さな広場があります。この展示スペースは、多方面へつながる辻広場の様相を呈しています。

ゲートのようなアート作品を潜って奥へと進むと、そこは多様な工房が集合するエリアです。まるで、路地のような空間へと続いています。先の二つのお店を含めれば、ノコギリヤネ全体が、まさに「まち」のように見えてきませんか。反対の東側のニワから入ると、混沌とした路地的空間に迷い込んでしまうかもしれません。まあ、迷うことは楽しいですけど。

「ニワ」に開いているから、ニワノコと呼ばれます。ニワとはいろいろなものが行き交う場です。ネコや虫のような生物に始まり、風や光のような自然、さらに人の声や物音など。そうそう、人の視線も入ってきます。ミチと同じく、コミュニケーションの発生する場です。ただ、目的もなく入る場合には、ミチノコよりも、ちょっと敷居が高いかもしれません。

さあ、どちらから入りますか。自由に楽しんで行って下さい。ただし、気をつけて下さい。迷路だから、出口がわからなくなる恐れがある。あなたをたぶらかす魔性に出くわすかもしれません。でも、あなたは出口を見つけるためにここに来たのですから、大丈夫でしょう。迷ったら、お店や工房の人に声をかけてみるといいですよ。でも、行き先が変わってしまうかもしれませんから、注意して下さい。



▲ ニワノコ：大広場・辻広場・路地

#### 4. オクノコが開くとき

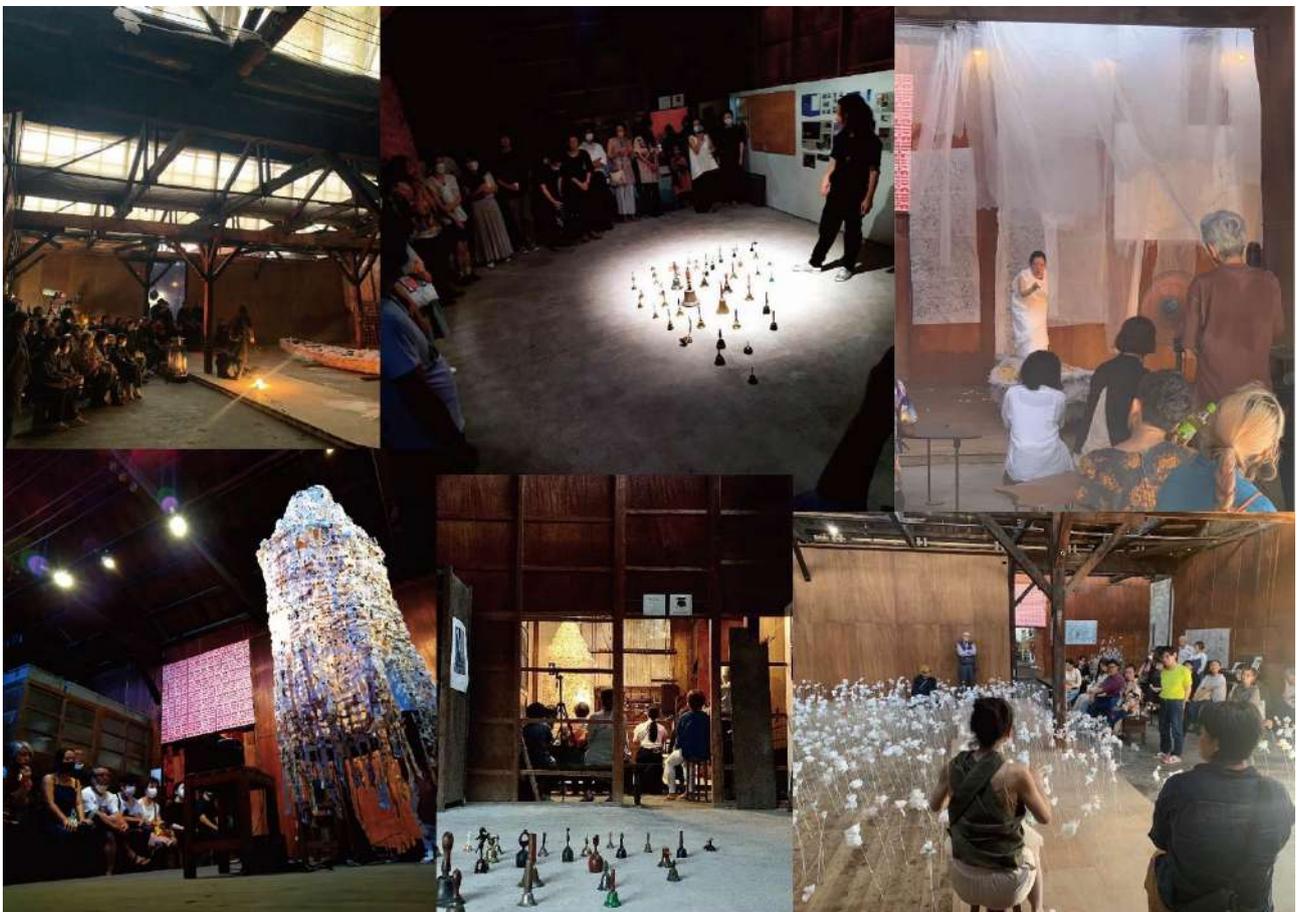
そうそう、ミチノコ、ニワノコ他に、オクノコと呼ばれるものがあります。迷うことを楽しみたいのなら、こちらがいいかもしれません。通常は、ミチやニワから見えない奥にあるから、そう呼びますが、そうじゃないオクノコがあるのです。

このノコギリヤネの奥はどこだと思いますか。ミチノコならば突き当たり、ニワノコならば迷路の中心でしょうか。いや、実は、オクノコは人の“こころ”に関わるものなのです。

かつて、このクニの住まいには、奥座敷という空間がありました。最もプライベートな空間ですが、ハレの場となる公共的な空間でもありました。それは、家族という共同体にとって神聖で大切な場所です。まちやむらにも、そのような精神性の中心となる場所や空間がありました。

家族やまち・むらのような共同体が崩壊し、人は「セカイ」に放り出されます。ひとりっきりの自分が立ち戻れる場がどこにあるのでしょうか。この広場では、アーティストが絶対的なプライベート空間を開きます。日常の価値観に与しない自由な精神性。そこに本来の公共的空間が立ち上がり、私たちは「生きる力」を得るのです。それがオクノコです。

実は、今夜、ここでイベントがあります。数週間前から一人のアーティストが創作を続けて来ました。今日がオープニングなのです。夜になると、ここは洞窟に変貌します。彼女のイメージするユートピアに、一人のアートパフォーマーが招待されています。タイトルは「ワルプルギスの夜」。あなたも参列しませんか。迷い人のあなたは、既にオクノコに足を踏み入れているのかもしれないよ。ワタシは、奥というより、いつものように高みの見物ですけどね。



▲ オクノコ：アーティストが立ち上げる絶対的プライベート空間

## ○エピローグ：開かれるオク：ガチャマンの遺産

ある思想家によれば、「私的 (private)」とは、「欠如している (privative) という観念」を含んでいるそうです (ハンナ・アレント『人間の条件』)。私たちは、住まいの最も私的な奥座敷に人を招いて、足りないものを補い、ハレの場を演出してきたのかもしれない。

3ヶ月前 (2024.5.3)、mhprojec が主催するイベントに隣席しました。メインステージに開かれた一面の花畑。そこで繰り広げられたパフォーマンスアート。アーティストが開いたプライベート空間と一体化する観客たち。当日、ここを初めて訪れた私の兄は、予期せぬ“祝祭”に遭遇し、やや戸惑いを感じていたようです。

この起地区では、のこぎり二のように、私的領域を開く動きが他にも見られます。「ノコギリアンガッカイ 2023」の最終日、カタリバの会場として使わせていただいた惣 sow が、屋敷・蔵や庭を開いたように、これに続く動きがあるのです。ノコギリヤネとともに、“ガチャマンの遺産”が開かれようとしているのです。この地域独自のオープンガーデンの展開が楽しみです。

しかし、このような期待感の一方で、現実の「のこぎり二」は、その維持が厳しい状況にあると聞きます。現代の遊園地はマーケット、企業の論理で運営されますが、原っぱは、そうではありません。資本主義経済の隙間で生き延びていくために、私たちは「原っぱの経済」を支えていくことが必要であり、ここにノコギリアン・コウバを置かせていただいている立場として、主体的に取り組むべきことと痛感せざるを得ません。

2024.8.23 (処暑。暦の上では既に秋のはずですが…)



▲“惣 sow”の開かれたガチャマンの遺産 (©青木俊克)